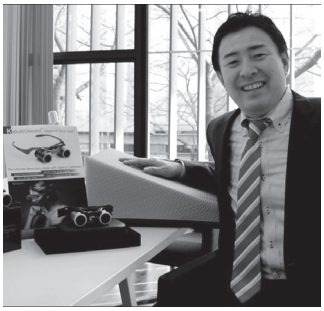
ストレッチグッズ 開発秘話



● フレックスクッション ●

サンテプラス株式会社　代表取締役
フレックスクッション開発者　**坂田 直明 氏**

坂田 直明 氏
1971年生まれ。東京都出身。立教大学では相撲部主将を務める。1995年　パナソニック入社。ロシアに2年間赴任。バレエ鑑賞にハマり、バレエと相撲の基本運動の共通点を再認識。2003年フランスHEC経営大学院(MBA)修了。仏タイヤ・ミシュランに勤め、フランスと日本で働く。2006年5月 サンテプラス株式会社を起業。「フレックスクッション」「フレックスバレル」や「カブキグラス（オートフォーカス双眼鏡）」を開発し、現在に至る。長年、立教大学相撲部コーチを務め、2017年から監督（～現在）。

サンテプラス株式会社
2006年5月に起業。フランス語のSANTE（健康）とPLUS(もっと)を組み合わせて、健康発展に寄与したいとの思いを込めた。2013年から新製品「カブキグラス」（オートフォーカス双眼鏡）を開発のため、本社を神戸市に移す。本社・神戸市。

フレックスクッション

協会機関誌「クリエイティブストレッチング」の裏表紙でもご紹介している【フレックスクッション】 ストレッチングを行う際に、ターゲットとしている筋肉を効率よく伸張させることができる優れた商品で、特に身体が硬い人のサポートツールとして大人気です。　いまやプロ野球、Jリーグ（日本プロサッカーリーグ）をはじめ、多くの日本代表チームがコンディショニングツールとして取り入れております。さらにその広がりは国内にとどまらず、海外のプロサッカーチームや米国プロバスケットボールチーム（NBA）、その他多くの海外アスリートがその商品の良さを実感し、日頃のコンディショニングに活用されています。

今回は、このフレックスクッションの開発者である坂田直明氏に、その開発に至った経緯やご苦労された点、商品のこだわりなどをお聞きしました。そこには、大きな夢を目指して突き進む坂田氏の熱い情熱がありました。「意志あるところに道は開ける」坂田氏はまさにそれを証明するかの如く、強い志を持って形にしてきた方です。私自身、坂田氏のお話を聞いて大変刺激を受けました。このインタビューを通して坂田氏のストーリーを垣間見ていただく中で、皆様のビジネスにおけるヒントになれば大変嬉しく思います。

（インタビュアー：JSA関西支部長　青木 孝至）

青木　坂田さん、こんにちは。本日はよろしくお願いいたします。

坂田氏　こんにちは、こちらこそよろしくお願いします。

青木　坂田さん、まず個人的なことなんですが、フレックスクッションは我が家ではひじょうに愛用しています。座るだけで簡単に骨盤が立ってくれるので姿勢がとても良くなりますね。ですからストレッチをする際だけでなく、床に座る時の座布団がわりにも使っています。お尻が痛くならないよう適度な柔らかさもあり、かつ骨盤をしっかり安定させる硬さもある…あの絶妙な感じがいいんですよね（笑）

また、うちには高校1年生の息子がいるのですが、この春は新型コロナの影響による外出自粛やオンライン授業等で、家で座っている時間がひじょうに長くて背中や腰が痛くなりだしたようで、そんな時に彼もこまめに使用していました。彼はバスケットボールをやっているのですが、つい先日、NBAのレブロンジェームズ選手がフレックスクッションをベンチで愛用している動画や写真を見て、その日からフレックスクッションを「レブロン」と勝手に名付けて一段と使用するようになりました。感化されやすい息子なんです（笑）。

さて、坂田さんにお聞きしたいのですが、このフ

レックスクッションの開発に至った経緯など教えていただけないでしょうか？

坂田氏　青木さん、ご家族でご利用くださって本当に有難うございます。

実はフレックスクッションの開発が目的ではなかったんです（笑）

青木　えっ？どういうことですか？

坂田氏　はい。2003年から週末のみ母校・立教大学相撲部のコーチをしていました。学生時代には、四股（しこ）・テッポウ・すり足・股割り等の相撲の基礎運動は「キツいけどなんとなく効果的なもの」としか思っていませんでしたが、コーチになってからは「四股やテッポウ、腰割り、股割りは、洗練され完成されたエクササイズで、とても健康に良いものだなぁ」と大変魅力を感じるようになりました。自重でできる、強度を自由自在に調整できる、汗をたっぷりかく、ヒップアップにもなる等、様々なメリットがあり、私の大先輩でも四股やテッポウを続けている方は「四十肩・五十肩と無縁でゴルフも飛距離が凄い！」という現実もありました。

会社に勤めていた頃、週1～2回、仕事の後にフィットネスクラブに通い、よくスタジオレッスンを受けていました。ところが、通っているフィットネスクラブでは、アメリカン的なグループレッスンばかりでした。その時に「なぜ、相撲の四股・腰割り・テッポウ・摺り足・股割り」をフィットネスクラブでやらないんだろう？？誰もやらないのなら、オレがプログラムを作って、ビジネスとしてフィットネスクラブに提供したい！」と強く思うようになりました。

青木　たしかに。四股や腰割りなど相撲の基本的な稽古は、足腰や体幹強化にはとてもいいエクササイズですね。

坂田氏　そうなんです。でも相撲は人気がない。大学の相撲部では毎年、部員不足に悩んでいるのが現状で、「だったら相撲を女性にモテるスポーツに変えたい。」そんなことを思いながら「もし世界中のフィットネスクラブで、SUMO EXERCISEがブームになれば、ヒップUPやダイエットの効果も出るし、スタジオレッスンを受ける女性が相撲への興味を持ち、相撲ファンも増え、モテるスポーツへの変革ができる！そんな一石二鳥のことをやりたい。」と心の底から考えるようになりました。自分自身がやりたいこと、夢（相撲をフィットネスとして世界に）を見つけたので、自然に起業に向けて突き進みました。

青木　素晴らしい夢ですね。坂田さんの相撲愛もとても素晴らしいです。当時は大手企業でフランスと日本を股に掛けて部下100人以上の営業部長を務められていたと聞いておりますが、ずいぶん思い切って退職を決断されたのですね。上司や仲間から何か言われませんでしたか？

坂田氏　「そんなんで会社辞めるのか？生活できるのか？」と多くの友人に心配されました（笑）

青木　そう言うとおもいますよ。でも、そこから夢に向かって歩みだしたわけですね。どのように進めていかれたのですか？

坂田氏　まず、大学時代にトレーニング指導でお世話になった立教大学の沼澤秀雄先生（現在スポーツウェルネス学科教授）にお会いしました。身体運動の科学的分析・評価を専門とされる沼澤先生から「相撲の動きはとても良いよ。素晴らしいエクササイズだ。」という、自分の前向き思考を加速させる力強いお言葉を頂戴しました。

2006年3月に起業準備開始。まずはアメリカのIHRSAというフィットネスクラブ関係の巨大展示会に行き、多くの人と名刺交換し、口頭で「Sumo Exercise」の提案をしました。その中で、ニューヨークの有名ピラティススタジオがとても興味を持ってくださり、後日、ニューヨークにプレゼンに行く約束を交わしました。その後、急いで「Sumo Core Exercise」を開発。通っていたフィットネスクラブのインストラクターやネットで検索した有名インストラクターに「四股・腰割り・テッポウ・摺り足・股割り」を説明し、フィットネスエクササイズ風にアレンジし、振り付けも依頼して完成させました。

青木　坂田さんの熱い思いと積極的な行動力がチャンスを生み出してきたわけですね。

坂田氏　ただ「相撲で必須の「股割り」（開脚ストレッチ）メニューは、ほとんどの人は身体が硬くてできないという問題点が出てきました。そこで、このエ

クササイズの付属品として、クッションを開発しようと考えました。

青木　おっ、フレックスクッションの登場ですね。

坂田氏　はい、私は学生時代、身体が硬く、土俵の俵（高さ5cm）にお尻を乗せてストレッチをしていました。その他にも風呂屋で、風呂の段差を利用して内転筋やハムストリングのストレッチもしていました。（今でもしています）　また、常々フィットネスクラブの会員として様々なレッスンに参加しながら受講者さんの様子をうかがっていると、身体の硬い人たちが置き去りにされ不満を持っている人が多いという現状に気づきました。このSumo Core Exerciseでは特別なクッションを付属品としてしまえば、みんなが効果的にストレッチできるし、エクササイズの模倣予防にもなる！と考えました。いずれにせよ、私自身の身体が硬いというコンプレックスから生まれたのがフレックスクッションです（笑）

青木　なるほど。フレックスクッションは、ご自身の身体の硬さとそれを克服してきた経験をもとに、同じ悩みを持つ方々の手助けとして生み出されたツールなんですね。

私自身、このフレックスクッションに最初に出会ったときは、その適度なクッション性にとても感動しました。それまで海外のよく似た商品を使用したことがあるのですが、ツルツル滑り、柔らかすぎて身体が安定せず、その良さが全くわかりませんでした。フレックスクッションはその柔らかさの中に骨盤をしっかり安定させる硬さがあります。あの絶妙な感じを出すのにいろいろご苦労されたのではないですか？

坂田氏　はい。実は土俵の俵の「高さ・傾斜・滑らない」ことが大きなヒントになっています。それを実現させるために約60の素材を試しました。そして約30社にコンタクトし、様々な素材と組み合わせを試すため数多くの実験しました。どの角度が良いか、どの硬さが良いか、「自分自身が欲しい感覚」を大事にしました。立教大学の沼澤先生にもご協力をいただき、学生への実験もできました。また当時、オフィスを構えていた中小企業基盤整備機構のベンチャー企業支援施設内の多くの方々にも試験に協力してもらいました。最終的には「エイヤー！」で決めました。でも、ここまではあくまでも「Sumo Core Exercise」の付属品としての開発です。

青木　約60の素材探し、30社程にコンタクト、数多くの試験…並々ならぬ時間と労力が費やされてこのフレックスクッションは作られたのですね。しかも短期間で…。

いやぁ～すごい！

坂田氏　はい、その後2006年6月にニューヨークのピラティススタジオに満を持して、Sumo Core Exerciseのプレゼンに行きました。2時間くらいかけて、四股・テッポウ・股割りなどのエクササイズの説明。付属品としてのクッションも持って行きました。最終的にスタジオの方から言われたのは「スモウは太るイメージがついてしまう。だけど、このクッションだけ、すぐ欲しい。これはピラティスにも使える」と…。Sumo Core Exerciseに関しては大変ガッカリしましたが、でも光が見えました。「このクッション…これを商品化したらどうだろう？」と。そう思って日本に戻り、すぐにフレックスクッション単体の商品開発に専念しました。付属品の位置づけから単体商品化へ、様々なクオリティをブラッシュUPしていきました。

発売の直前にストレッチ界の第一人者である長畑芳仁先生（日本ストレッチング協会理事長）を紹介いただき、埼玉県戸田市の「すとれっち塾」にサンプルを持参し、試していただきました。すると「いいね～これ。」とポジティブな反応が…（涙）。そして、2006年10月末に発売開始し、法人からの初受注

が「すとれっち塾」からでした。10個も導入していただきました（涙）。その後も長畑先生がCreative Stretchingやコーチングクリニックでフレックスクッションを紹介して下さり、フレックスクッション普及のための後押しをしてくださいました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです！日本ストレッチング協会の方も多く導入してくれました。この場を借りて、感謝申し上げます！ありがとうございます。

青木　いえいえ。これは本当に素晴らしい商品ですから当然、どんどん世に広がっていきますよね。その後、このフレックスクッションはどのように広がっていったのですか？

坂田氏　まず、2007年2月に名門・福島大陸上部を訪問しました。川本監督が「一発で骨盤が立つのが素晴らしい」と絶賛してくださり、20個も注文してくれました。これがアスリート関係の初の受注となりました。その後、宮崎出張において、当時、日本一であった強豪プロ野球チームとアポが取れ、フレックスクッションを紹介したところ数個採用してくれました。その後、ほとんどの選手が個人購入してくれるようになりました。そして、宮崎と言えば「旭化成！」と頭に思い浮かんだので、104で電話番号を調べて、旭化成陸上部に電話したらアポが取れました。さっそく延岡の練習場に行って商品説明をすると、即20個の注文をいただけました。更には、その年、大手フィットネスクラブのティップネスから「全店でグループレッスンでの導入をしたい」との打診があり、7月から全店でグループレッスンが開始。これらの４つの採用が大きな力になり、その後、プロ野球12球団、米国プロ野球5球団、日欧のプロサッカー25チーム、米国プロバスケ数チーム、米国ドナルド・チュー氏のジム、米国マイク・ボイル氏のジム、米国PeakPilates社等に普及していきました。まだまだ発展途上ですが、フィットネスクラブ

米国マイク・ボイル氏のジム

では、ストレッチスペースの定番品となりつつあり、グループレッスンでも多く活用されるようになりました。フレックスクッションを通じて、大好きなスポーツやフィットネスの仕事に関われることに日々喜びを感じています。

青木　さまざまなこだわりを持って開発された素晴らしい商品ですから自信を持ってお勧めできると思います。でも、それに加え坂田さんの営業力がすごいです。

最近では、フレックスバレルもよく見かけるようになりましたね。うちの息子はフレックスバレルを「くじら」って名付けて愛用しています。このプレックスバレルの開発はどのような経緯なのでしょうか？

フレックスバレル

坂田氏　はい。私は「ビジネスに国境なし」と常々思っており、米国の展示会やコンベンションに出展を頻繁にしていました。その中でフレックスクッションを気に入っている米国のピラティス団体の有力指導者から「この素材で、スパインコレクターを作ってほしい！米国のスパインコレクターは、重くて腰を痛める、座面が滑る、硬くて脛をケガする等の不満がある」と依頼を受けたんです。そこで、サイズと形状を日本でも使えるように変更を加えて開発したのがフレックスバレルです。ピラティス業界のみを想定していたが、アスリートで試していただくと「安定した状態で胸椎や体側が伸びる！」「胸郭が開く」などと評判になり、プロ野球を起点にアスリートにも徐々に広がり始めています。

青木　スパインコレクターの進化版ですね。本当に安定した状態で胸椎などが伸び、胸郭が広がって呼吸がとても楽になります。しかも素材が硬くないので背中が痛くないのが嬉しいですね。軽いので持ち運びも楽です。我が家では欠かせません（笑）

最後に、坂田さんが今後取り組んでいきたいことなどお話しいただけないでしょうか？

坂田氏　まだまだ発展途上ですが、基本的には「自分自身が欲しいものを開発し販売する」という方針です。頭の中にある理想のものを商品化する。その第2弾が2013年に開発したオートフォーカス＆ハンズフリーな双眼鏡「カブキグラス」です。ロシアでの観劇体験から「いつも良い席で見たい。席をアップグレードする双眼鏡がほしい」という欲求に基づき、2年間かけて開発しました。世界の名門劇場やプロ野球のスカウトでも導入実績が出てきましたが、今後はもっとスポーツ分野のマーケットを開拓したいと思っています。

青木　カブキグラスはサンテプラス（株）のホームページの動画で拝見しましたが、オートフォーカスでブレないのがいいですね。

坂田氏　もう1つ夢があります。それはビジネスコメディーの映画を作ることです。

青木　えっ？ビジネスコメディー映画ですかぁ…。また意外な回答なのでビックリしました。

坂田氏　商品開発や商談など、ビジネスにおいてはタフな交渉、断られることも多々あります。悔しい思い出もいっぱいあります。「これらを全てコメディーにしたい」、世界共通の笑いを起こしたい、そして、それを機に起業をする人が増えれば、世の中、楽しくなるとの思いがあります。自らの経験を軸にそんなことができれば、と思っています。

青木　坂田さんがこれまで一心不乱に頑張ってこられた経験がそこに濃縮され、企業を目指す人や営業で苦労されている人などを勇気づける作品になりそうで大変興味深いです。ぜひ実現させてほしいです。

坂田氏　そしてプライベートでも夢があります。私は2017年に母校・立教大学相撲部の監督になりました。立教相撲部では、監督・コーチ全員がボランティアで、週末のみの指導です。今の私を育ててくれたのは立教大学相撲部です。相撲で養った「もう１丁！」の精神（＝負けても、勝つまで這い上がる）。学生時代、主将としてどのように部員を増やすか等の作戦。起業する際、国際相撲連盟の推薦をもらうために力を貸してくれた大先輩たち。競技人口が天然記念物なみに少ない大好きな相撲を人気あるスポーツへ変革するよう導きたい。そして、母校・立教大学相撲部の発展に貢献したい。相撲部を通じて、社会で活躍する人材を育成したい。これらは私の原点でもあり、心からの願いです。

青木　相撲を通じて培われた情熱、創意工夫、そして誠意が、坂田さんの原点であり原動力なんですね。そして、相撲界への貢献、先輩方へのリスペクト、これからの人材育成など、坂田さんの相撲愛も感じることができました。

今回、いろいろお話を聞かせていただき大変刺激を受けました。坂田さんのこれからのご活躍、益々楽しみにしております。

本日は貴重なお時間をいただきまして有難うございました。

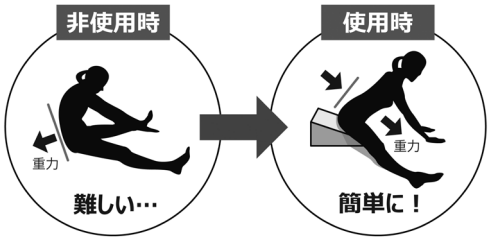
坂田氏　こちらこそ有難うございました。

サンテプラス株式会社のホームページでは、商品紹介＆基本エクササイズを紹介しております。どうぞ参考にしてください。（www.santeplus.jp）

【フレックスクッションの特徴】体の硬い人でも骨盤が立ちやすいのが最大の特徴です。

身体の硬い人や低体力者もフレックスクッションの特殊構造により、骨盤を立てやすく、正しい姿勢（S字カーブ）を保ちながら、自重を利用して、骨盤＆股関節周辺のストレッチやコアトレが安全かつ効果的にできます。

（立教大学スポーツウェルネス学科　沼澤秀雄教授）



【フレックスクッションのお薦めストレッチ】

内転筋　ハムストリング　骨盤運動　腸腰筋　腓腹筋　中臀筋・大臀筋

【フレックスバレルのお薦めエクササイズ】